



ボランティア・学生インターンを募集しています!

政策に共感して頂けるボランティア・学生インターンを募集しています。ご都合の良いお時間だけで結構です。メールやお電話で、お気軽にお問い合わせ下さい!

千代田のまちづくりを考える!(後編)



千代田区における まちづくりの可能性

新型コロナウイルスの影響とは

千代田区では20年ぶりに都市計画に関する基本的な方針となる「都市計画マスタープラン」の改定が検討されています。これからの千代田のまちづくりの将来像を示す上で、もっとも重要となるのが新型コロナウイルス感染症対策です。2019年11月に中国武漢市近郊で発生が確認されて以来、日本を含む世界中で猛威を振るっています。WHOが新型コロナウイルスの感染拡大がパンデミック(世界的な大流行)になったとの認識を示してから1年が経過しました。千代田区でも高齢者にむけたワクチン接種が順次開始され、治療薬も開発されている一方で変異株の脅威も叫ばれており、ここ東京も4月25日から3回目の緊急事態宣言が発令されました。

私たちは、新型コロナウイルスの感染拡大によって、外出自粛など日常生活が大きく制限され、生活様式や働き方など、価値観の大きな変化に直面しました。通勤・通学のスタイル、人との接し方やコミュニケーションのとり方、商業地や飲食店街の賑わい、イベント、交流のあり方など、私達がこれまで「常識」と考えていたことが変化を起こし、Withコロナ・Afterコロナの社会情勢に適応するための行動、

いわゆる「ニューノーマル」に移行してきました。

ニューノーマル時代の千代田とは

感染症の世界的な大流行は、古くは14世紀の欧州におけるペストや、19世紀以降7回も大流行したコレラ、近年ではスペインかぜなど、私たちは人類はこれ迄何度も様々な感染症と戦ってきました。特にスペインかぜでは世界中で約5億人が感染し、死者数は1億人以上とも言われ、日本でも人口の約43%が感染し約39万人が死亡しています。

パンデミックをもたらした要因としては、森林伐採などの生態系の変化や都市化などが挙げられています。それではニューノーマル時代における都市のあり方はどう変わるのでしょうか。都市部への一極集中が是正されるとの意見もありますが、首都圏のマンション購入意識調査では、千代田区を含む都心6区を検討している人が増えているとの報道もあります。働き方についても、テレワークの普及により、どこでも働ける環境が整いました

が、逆にコミュニケーションの重要性が再確認され、直接人と人が会い、議論・交流する場が一層必要となりました。ニューノーマル時代の働き方では、単純

作業はテレワークで、コミュニケーションやクリエイティブな仕事は都心のオフィスへと役割分担するのではと考えています。千代田区の人口はここ1年においても増加しており、都心への都市機能の集積ニーズや都心で暮らしたい人々は、今後も変わることはないと考えています。

千代田に求められるまちづくりとは?

千代田区は感染症対策だけではなく、首都直下地震や都市型災害、少子高齢化や脱炭素化など様々な課題を抱えており、これらを解決できるまちづくりが必要となります。

まず、公共空間は密を避けるため、適切な距離や空間が必要です。限られた面積のなかでは、再開発による空間の創出や低未利用地の有効活用が求められます。特に身近な公園や子どもの遊び場、スポーツ施設は、官民協働での推進が現実的であり、コミュニティの場や防災拠点としても有効となります。また、神田川や日本橋川、お濠などの豊かな水辺は、浄化や川岸の整備を行い、身近で豊かな水辺空間として整備活用することも重要です。

一方コロナ渦では世界中で混雑した電車やバスを避け、徒歩や自転車を移動手段とした人々が増加しました。環境にも健康にもメリットがありWHOも推奨しています。今後は、ゆとりある歩行空間の確保や自転車専用レーンの整備も必要となります。更にこれからは、徒歩や自転車で移動できる小学校区程度の範囲で、暮らし、働くことができる職住近接が理想であると考えています。パリやミラノは、15分の徒歩圏内で職住近接が実現する「15分コミュニティ」運動に取り組んでいます。樋口区長も私の代表質問にて、居心地がよく歩きたくなるまちなかの形成を目指す「ウォーカブル推進都市」への取組みを約束してくれました。

これからのまちづくりでは、多様な利害関係者が連携を図り、住民が自分達のまちに関心を持つことが大切となります。私達は新型コロナウイルスによって、まちのあり方を再考する絶好の機会を得ました。ニューノーマル時代における千代田の在り方を、これからも皆さんと一緒に考えて行きたいと思っています。

ルセー美術館は特に有名です。

一方、パリと言えば19世紀前半ナポレオン3世の構想に沿ってオスマンが取り組んだ都市整備事業「パリ大改造計画」も有名です。当時のパリは、光が当たらず風通しも悪く、悪臭が立ち込めるなど、生活環境・都市衛生が極めて劣悪で、病気や疫病が蔓延する街だったそうです。光と風を取り入れ衛生状態を良くするために、街路の拡幅や直線化、斜交路を図り、現在のパリの街並みが完成しました。

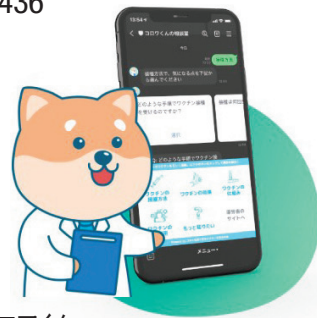
それから150年が経過し、新たな都市

計画である大規模都市再開発計画「グラン・パリ」が着々と進められています。パリ首都圏を21世紀に相応しい大都市に変え、国際都市間競争の中で、その地位を確保することを目指しています。また、この計画は、住民の生活環境を改善し、持続可能な都市を目指しています。東京のライバルであるパリが、今後最も注目すべき都市であることは間違いなく、定点観測を続けたいと思います。

Study 新型コロナウイルス予防接種について

千代田区では、5月2日迄に1箱、9日までに12箱のワクチンが到着予定です。高齢者施設への巡回接種は、THE BANCHE、いきいきプラザ一番町、ジロール麹町、ジロール神田佐久間町、かんだ連雀、岩本町ほほえみプラザで6月1日迄に接種完了を予定しています。高齢者への接種は、75歳以上(約6500人)が5月24日から、65歳~74歳(約5300人)は予約状況により順次接種開始の予定です。接種券が届きましたら、電話、インターネット、区の公式LINEのいずれかの方法で予約ができますので、是非受けて下さい。

新型コロナウイルス予防接種担当課
Tel:03-6272-8436



コロワくん

Action 議会運営委員長を務めて

議会運営委員会とは「議会の運営に関する事項」「議会の会議規則、委員会に関する条例等に関する事項」等について、審査・調整する組織です。千代田区議会では各会派の代表11名で構成されています。委員長は議長を支え、議会をスムーズに運営するなど、調整能力が求められます。幸い当会派には経験豊かな先輩も多く、ご指導頂きながら、委員長としての責務を果たして参りました。貴重な経験をさせて頂き、会派の皆様には感謝しています。



議会運営委員会(自民党)

Sense 世界の街歩き



パリ(フランス共和国)

人口 215万人
面積 105km²

パリはフランス最大の都市であり、欧州を代表する世界都市です。1998年のフランスワールド杯で初めてパリを訪れ、その美しい街並みと美食に魅了され、これまで3度訪れました。世界屈指の観光都市として芸術の都とも称され、ルーブル美術館やオ



「新型コロナ対策」「地区計画の見直し」「外濠公園総合グラウンドの整備」等について、代表質問を行いました。(前号からの続き)



1. 新型コロナ対策としてのワクチン接種体制と地域経済活性化

【問題の背景】ようやく日本でもファイザー社のワクチンが特例承認され、医療従事者への先行接種が始まりました。具体的には、接種会場の確保、予約システムの構築、接種券の配付、医療従事者の確保などを短期間に確実に進めなければなりません。最初に接種される高齢者へは、接種券を受け取り、予約をするまでのサポートも必要になるのではないのでしょうか。また、ワクチンの性質、効用と副反応、接種がいつできるかなど、ワクチンに関する質問や不安に迅速に対応できる仕組みの構築も必要だと思えます。

【質問】

高齢者へのワクチン接種の体制についてお答え下さい。更に、区民の日常生活を支援すると共に、地域経済を活性化する施策も必要だと考えます。

【区(執行機関)の答弁】

切り札として期待されるワクチン接種は、供給が始まった際には、希望する区民が安心して速やかに接種ができる体制の確保に全庁挙げて取り組んでいる。接種方法としては区有施設での集団接種を基本に、病院等医療機関での接種や介護施設への巡回を検討している。一方、区独自の予約システムを開発中であり、相談窓口を開設や、LINEチャットボット「コロワくんの相談室」を活用できるようにした。

また、地域経済を活性化する施策の一つとして、区内の中小の店舗において、デジタル技術を生かし、電子決済によるポイント還元などの実施により、地元店舗での消費を喚起していくことを検討したい。電子決済の導入は、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた店舗運営につながり、中小企業のDX化やキャッシュレス化を促進することにもなる。また、広く昼間区民にもポイントが還元されることで、昼間区民の消費活動が区内の中小店舗に向かうことが期待できる。

2. 都市計画マスタープランの改定に伴う地区計画の見直し

【問題の背景】20年ぶりに千代田区都市計画マスタープランの改定が検討されています。豊かな都心環境と高度な都市機能を有する千代田区は、代表制と多様性を兼ね備えた唯一無二の都市であり続けています。日々変貌する中で普遍的な価値を守る、これが千代田区のまちづくりのポイントです。一方、区内には、老朽化により機能更新が迫られるエリアも多く存在し、首都直下地震や気候変動リスクへの対応、脱炭素化など、これから

の機能更新には持続可能性が強く求められています。改定案では、再開発や共同化、リノベーションなど多様な手法を適切に組み合わせ、時代と地域特性に即した市街地の再構築を進めるとしています。これらを地区で具現化するためには、地区のマスタープランである地区計画の見直しが必要です。コロナと共生するニューノーマルに対応した機能の誘導、個性的な商業文化の継承、歩いて楽しいまちづくりなどが実現できる地区計画に転換することが必要です。

【質問】

改定マスタープランに沿った地区計画の見直し方針と変更に向けた具体的なスケジュール、また、心地よく歩きたくなるまちづくりを加速するために、国土交通省が提唱するウォカブル推進都市にエントリーしては如何でしょうか？

【区(執行機関)の答弁】

都市計画マスタープランの改定を踏まえ、今後、地区計画の見直しの検討に着手する。初めに、脱炭素社会、急速な高齢化の進展、巨大地震や気候変動による異常気象の脅威、デジタル化の推進など都市を取り巻く環境の変化に的確に対応していく。次に、新型コロナウイルス感染症蔓延により都市活動の様々な場面で進むニューノーマルに対応し、感染症の拡大防止と経済社会活動の両立を図り、持続的でよりよい復興を目指していく。そして、長く培われた地域の魅力ある個性の継承を図っていく。

今後は、都市の質的向上を図るため、地区の価値と持続可能性を高める機能・用途の誘導の在り方を検討し、さらにコロナ禍を契機に建築・開発に空間的なゆとりが一層求められるなか、規制や緩和の在り方についても検討をしていく。この様な考え方に基き、速やかに地区計画見直し方針の策定に着手し、対象地域や検討体制、合意形成のスケジュール等、令和3年度中にお示しできるよう取り組んでいく。また、ウォカブル推進都市については、人優先のみちづくり・まちづくりを官民一体で進めるため、千代田区もウォカブル推進都市にエントリーする様、手続を進めていく。

3. 地区計画の見直しに向けた合意形成の手法は

【問題の背景】千代田区には39地区、約507ha、皇居周辺を除くおよそ6割にきめ細かく地区計画が定められています。しかし、30年以上も前に決定したものもあり、社会や地域の環境とそぐわない計画も散見されます。これらの見直しには、多様なステークホルダーが、まちづくりの将来像を共有する必要がありますが、地域の特性や多様な利害の調整等、合意形成のプロセスは容易ではないと思われます。

【質問】

地区計画の見直し地域における合意形成の手法について見解をお聞かせください。

【区(執行機関)の答弁】

これまで、区が決定した地区計画の多くは、既に十数年を経過し、30年を経過して

千代田コラム

Sense

山の上ホテル

神田駿河台にある「山の上ホテル」は、昭和29年に開業しました。昭和12年に建築家ウィリアム・M・ヴォーリズにより設計された「佐藤新興生活館」として完成し、太平洋戦争中は旧海軍に、戦後はGHQに接收されてきました。鉄筋コンクリート造6階建ての本館は、アールデコ様式でクラシカルな雰囲気を今に残し、都心とは思えない静かで落ち着いた空間を醸し出しています。

ここは「文化人のホテル」と言われ、神保町の書店街に近く、出版社も多数あるなどの立地の良さから、著名な作家が利用することで有名です。常連だった三島由紀夫は昭和30年当時「東京の真中にかういふ静かな宿があるとは思はなかつた。(中略)願わくは、ここが有名になりすぎたり、はやりすぎたりしませんやうに」と語っていたそうです。他にも



川端康成、池波正太郎、吉行淳之介、松本清張などなど、数え切れないの程の作家が利用しており、私もここで何度か伊集院静さんお見掛けしました。

千代田区には山の上ホテルだけではなく、学生会館や東京ステーションホテルなど、クラシカルで素敵なホテルが、地域の歴史や文化を継承してくれています。これらの地域に残る歴史的建築物を大切にしていきたいと考えています。

いる地区もある。策定後に、区内への転入や権利を取得した方々も多く、地区計画の内容が十分知られていない事もある。今後の変更などに向けて、まずは現行計画の周知を図っていく。その上で、具体的に地区計画の変更などを検討する際には、制度や地域特性等のデータを分かりやすく共有するなど、合意形成に向けた工夫を図っていく。また、地域に住む多様な人々、子供や高齢者、障害者、子育て中のママ・パパ等、さらに、在勤者や学生など多様な意見を聞くことが必要だと考えている。こうして、様々な頂いた意見とともに、地域のまちづくり協議会の議論も踏まえ、区として責任を持って、まちづくりの方向性をまとめていく。

4. 外濠公園総合グラウンドの整備について

【問題の背景】自民党会派はこれまで代表質問や、予算委員会にて、幾度となく指摘・ご提案を行ってきました。ようやく平成30年度予算に2億円が計上されましたが、関係機関との協議や調査に時間を要し、いまだ荒れ果てたグラウンドが放置されている状況が続いています。区内唯一の屋外施設である外濠公園総合グラウンドの整備は、年間150日も利用できない状況を改善し通年利用を図る事業です。人工芝化や多目的化、環境に配慮された施設整備は、多くの区民がスポーツに親しめる環境を創造することができます。コロナと共生するニューノーマルな生活の中では、貴重な屋外施設として、より一層重要となってきました。当初の計画から3年以上も遅れてしまいました。これは、区の怠慢であると言わざるを得ません。

【質問】

人工芝化・多目的化により、現在の最大1.7倍もの利用日数を拡大することができます。環境に配慮された次世代人工芝など、温度上昇抑制や子供にも優しい新技術も数多く開発されています。九段小学校校庭に学び、通年利用の実現に向けた、具体的な整備計画をお聞かせ下さい。

街づくりへ、プロの視点。

内田直之(うちだ なおゆき)

1964年、熊本市生まれ B型。
国立有明高専建築学科を卒業後、トステム株式会社(現LIXIL)入社。総合企画室主任、海外赴任を経て商品企画室長となり、主力商品の経営戦略・商品戦略、多くの開発プロジェクトに携わる。働きながら明治大学公共政策大学院を修了。2011年より千代田区議会議員。一級建築士。

●学歴

国立有明高専建築学科 卒業
明治大学公共政策大学院 修了

●職歴

トステム株式会社(現LIXIL) 25年間勤務

●所属団体

一般社団法人 千代田区サッカー協会 会長
千代田区ラグビーフットボール協会 副会長
千代田区軟式野球連盟 顧問
千代田区相撲連盟 顧問
千代田区ゲートボール協会 顧問
明治大学 校友会千代田区地域支部 副支部長
明治大学 都市施策・危機管理研究所 客員研究員
社会保険労務士会 千代田統括支部 顧問
公益財団法人 京葉鈴木記念財団 顧問
一般社団法人 東京建築士会

●内田直之事務所

〒101-0041 千代田区神田須田町1-30-1-103
Tel/Fax 03-3252-8832
Web www.uchidanaoyuki.com
e-mail uchida@tcn-catv.ne.jp

Action 活動フォトギャラリー



▲横浜創英/工藤勇一校長先生



▼皇居外苑濠の浄化システム視察



▼常盤橋プロジェクト視察



▲東京武蔵野FC代表と樋口区長



▲予算特別委員会(委員長)